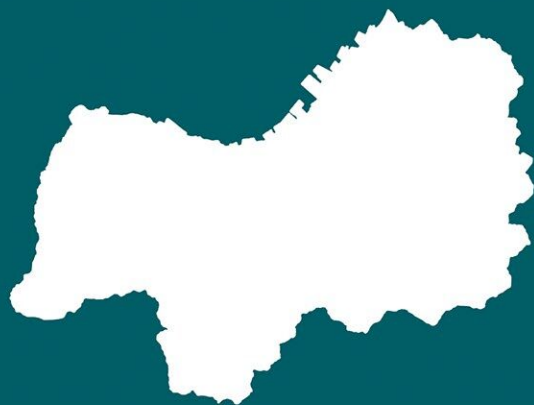


四国中央市の 農業の概要



SHIKOKUCHUO



四国中央農業改良普及事業推進協議会
四国中央市農業振興センター

〒799-0422 四国中央市中之庄町1684-4
TEL (0896) 23-2394 FAX (0896) 24-3697



【管内の農業の概要】

位置

四国中央市は、愛媛県の東端に位置し、東に香川県、徳島県、南に高知県に接し、北は燧灘に面します。交通は、東西にJR予讃線、国道11号線および松山自動車道が走るとともに、高知・徳島自動車道とも連結し、四国の交通の要衝となっています。また、同市の海岸線は東西25kmにおよび、海岸線に沿って東部には全国屈指の「製紙、紙加工業」の企業群が、西部では干拓地や基盤整備水田が一面に広がり、さらに南には急峻な法皇山脈から四国山地へ続く山間部を擁しています。

気候

嶺北地域の気候は平均気温16.4℃、降水量1,444mmで、温暖少雨な瀬戸内気候です。嶺南地域の降水量は2,100mmを超え、銅山川水系にはダム整備（富郷、柳瀬、新宮）がなされています。

気候は好条件ではありますが、平野部では主に春と秋に日本三大局地風の1つの「やまじ風」という暴風が吹きます。この風は最大瞬間風速40m/秒を超える時もあり、農作物や家屋等に大きな被害を及ぼすこともあります。

農業の特色

嶺北地域では水稻、さといも、やまのいも、柑橘、赤石五葉松などが栽培され、中でもさといも、やまのいもは風の影響を受けにくい作物として定着、拡大してきました。さといもは県内1位の生産量を誇り、トップブランドとして流通販売されています。また、畜産は飼養頭羽数が減少していますが、採卵鶏や養豚の6次産業化に取り組むなど収益性の高い経営に取り組んでいます。嶺南地域では、冷涼な気候を生かして、茶やシキミ等の生産が行われています。

一方、管内は製紙関連産業が盛んで、特に川之江・三島地区の臨海部には数多くの製紙工場、紙関連加工所、倉庫群等があり、地域の労働力の受け皿にもなっているため、ほとんどの農家は兼業農家で、農作業の担い手の中心は高齢者や女性が担っています。また、当地区が交通の要衝であるため都市化が進んでおり、農地面積は減少しています。

■ 主要農業統計表

項目	単位	愛媛県	四国中央市	割合
総農家戸数	戸	34,994	2,286	6.5%
農業経営体数	経営体	21,734	1,049	4.8%
うち個人経営体	経営体	21,221	1,022	4.8%
うち主業	経営体	4,528	109	2.4%
うち準主業	経営体	2,417	167	6.9%
うち副業的	経営体	14,276	746	5.2%
耕地面積	ha	44,300	1,630	3.7%
うち水田面積	ha	21,000	1,210	5.8%
うち畑面積	ha	23,300	416	1.8%
農業産出額(推計)	千万円	12,320	431	3.5%
うち米	千万円	1,340	62	4.6%
うち野菜	千万円	1,900	164	8.6%
うち畜産	千万円	2,850	111	3.9%

※ 総農家数、農業経営体数：2020農林業センサス、耕地面積：中国四国農林水産統計データ集より令和5年分
農業産出額：中国四国農林水産統計データ集より令和4年分

■ 気象表(平年値)

(単位：℃、mm)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均気温	四国中央	5.9	6.2	9.3	14.4	19.3	22.7	26.9	27.9	24.1	18.6	13.2	8.3	16.4
降水量	四国中央	44.9	56.2	94.9	89.2	113.2	175.8	198.7	162.6	232.5	142.5	69.5	64.5	1444.4
降水量	富郷	68.2	79.6	135.5	125.7	143.6	221.6	309.2	305.9	371.5	181.9	96.5	96.9	2173.5

※ 数値は1991年から2020年の30年間の平均値。富郷は降水量のみ。

さといも

さといもは、やまじ風の影響を受けにくい作物として400年余り前から栽培され、県内有数の産地が形成されています。かつては「女早生」を中心に栽培していましたが、現在は、県が育成した秀品率が高く多収性の「愛媛農試V2号(商標:伊予美人)」が栽培されています。また、全期マルチ栽培や機械化一貫体系等を導入し省力化安定生産に取り組み、4t/10aを超える生産者も現れています。これらの技術は、平成31年に整備された愛媛さといも広域選果場により、東予全体に普及拡大しています。



さといものマルチ栽培



さといものドローン防除



伊予美人

やまのいも

やまのいもは明治後期に導入され、水稻の生産調整を機に栽培が拡大したことで、地域特産野菜として定着しています。栽培面では、収量・品質向上のため支柱栽培が普及しているほか、省力化が図れるマルチ栽培も導入されています。また、愛媛県が育成し秀品率の高い「やまじ王」に品種更新され、令和元年にはブランド名「やまじ丸」が商標登録されるなど、有利販売に取り組んでいます。



やまのいものマルチ栽培



優良園での現地講習



やまじ丸

水稻

水稻は「ヒノヒカリ」や「にこまる」、「コシヒカリ」が多く栽培されています。中でも学校給食米の「うまさだち(JAうま登録商標)」は、エコえひめ認証(特別栽培農産物(5割減農薬5割減化学肥料))を受け、生産計画に基づき丹精込めて栽培し、安全・安心なお米を市内全ての小・中学校に提供しています。

また、近年では、高温下でも品質低下しにくい県育成品種の「ひめの凜」や「にこまる」の栽培が進んでいます。



穂肥現地講習



高温耐性品種「ひめの凜」



茶

茶は嶺南地域を中心に、山間地の自然の恩恵を生かし香り高く旨味の深い茶葉が生産され、県下有数の産地を形成しています。昭和29年に旧新宮村で始まった栽培は地域内に拡大するとともに、昭和60年頃から地域全体で農薬を使わない栽培に取り組み、栽培面積は44haになっています。

現在は、茶の消費拡大や生産性の高い茶園の維持・振興等を推進するため、3つの製茶工場の協力のもと協議会を設置し、「結の霧ひめ」等のブランド商品開発や販売促進活動に取り組んでいます。



お茶摘み体験による交流



かぶせ茶の生産



結の霧ひめ

花き・花木

嶺南地域では、冷涼な気象条件を生かしたシキミの栽培が盛んに行われています。小葉で光沢のあるシキミは、盆・彼岸の需要期にはJA直売所の人気商品となっています。

平成20年から取り組み始めたピットスボラムやヒムロスギは、「うまの花」として首都圏や関西の市場から高い評価を受けており、全国有数の産地となっています。近年は、ミモザアカシアやボポラスベリーなどの新規品目の導入にも積極的に取り組み、産地拡大が市場から期待されています。



生産者が園地巡回で互評



出荷調整の目合わせ



ピットスボラムとヒムロスギ

果樹

金生、川滝、松柏、天満の傾斜地を中心とした樹園地において、温州みかんを中心とした柑橘栽培が行われています。近年は、食味が良く消費者志向にマッチすることで高い収益性が見込まれる県育成オリジナル品種の「愛媛果試第28号(商標:紅まどんな)」や「甘平」が導入され、栽培面積が徐々に拡大しています。また、品質向上対策として、樹冠上部摘果や後期重点摘果などの技術が導入されています。



品質向上に向けた摘果講習



紅まどんなの簡易雨よけ栽培



収穫前の甘平

畜産

農業産出額における養豚や養鶏を中心とした畜産の占める割合は26%となっており、野菜に次いで産出額が多い品目となっています。

近年は配合飼料価格の高止まりに加え、各種資材の高騰など畜産を取り巻く情勢が厳しい中で、地域の特色を活かした畜産物の高付加価値化・ブランド化や、農家レストラン、惣菜店など、多種多様な経営展開を行っています。



標高450mにある平飼い鶏舎



養豚農家が経営する惣菜店

鳥獣害対策

近年イノシシ、ニホンザルの生息域が、地域住民の生活圏と重なるようになり、中山間地域を中心に鳥獣被害が増加傾向にあります。そこで天満地区や上野地区においては、農業被害や生活環境被害を軽減するため、集落で被害対策に立ち向かう体制整備を図るとともに、防護柵設置等の守りの対策、獣種に合わせた大型捕獲檻等による攻めの対策を組み合わせ、地域ぐるみで被害対策活動を行っています。



サル用の複合柵を設置した柑橘園地



大型捕獲檻で餌付けする農業者

【担い手支援活動】

認定農業者組織

認定農業者等の経営技術や資質向上を図るほか、関係機関等との情報交換や各種の交流及び研修等を通じて、四国中央市の農業の発展に寄与することを目的に活動を行っています。



農機具メーカーで視察研修

青年農業者組織

若手農業者が組織し、資質向上や交流促進に加え地域農業の活性化に向けた活動をしています。果樹・野菜・養豚・養鶏の専門部会により情報交換や新技術等の情報収集を行い日々研鑽しています。



東予地区青年農業者交流会

一次産業女子

さくらひめ四国中央会は、頑張る農業女子の活動をPRし農業を盛り上げることを目的にInstagramで情報発信するほか、中学校で出前授業を行い農業への理解やイメージアップに取り組んでいます。



中学生を対象とした出前授業

四国中央生活研究協議会

郷土料理やさといも料理、コンニャク作りなどの技術伝承を目的に、食文化の普及と継承に向けた講座を開催するとともに、地域農業への理解を深め、地域農産物の消費拡大を呼びかけています。



郷土料理の技術伝承

【地域が一体となった活動】.....

地産地消の推進

平成17年に『食育』に根ざした『地産地消』を推進する都市宣言を行い、市内全域の小・中学校の全ての学校給食米は、エコえひめ認証を受けた地元産「うまそだち」を使用しています。



小学生による学校給食米の収穫体験

ふるさとづくり大会

四国中央市の食生活を担う農業組織及び消費者が一堂に会し、地域農業の振興と地産地消の推進、安全な食生活の確立、活力ある農村社会づくりに向け、毎年開催しています。



第50回農山漁村ふるさとづくり大会

四国中央市産業祭

農林水産業と商工業の関係団体等が一体となり、地域特産品の展示や販売を行い、消費者と直接交流を深めています。農業では、さといも、やまのいも、茶など地元農産物の利活用を紹介する等、生産振興と消費拡大を後押ししています。



大鍋によるいも炊き

やまじ風対策協議会

昭和26年、やまじ風で大きな農業被害を受けたことにより、原因究明に向けた資料収集、災害防止のための予測や対策技術の調査研究を目的に、市と関係団体で協議会を設立しました。

その後、気象庁や日本気象協会、香川大学、市立三島南中学校気象部の協力を得ながら、気象観測活動と予測精度の向上に努めています。



風向風速計